



ことば便り

墨田区立押上小学校
 校長 島田 和久
 ことばの教室 NO.9
 TEL 03-3617-6925
 令和6年1月9日(火)



あけましておめでとうございます。どのような新年を迎えましたか？

寒い日が続きますが、1月～3月は学年のまとめの時期。4月には進級・卒業します。楽しく、充実した毎日を過ごしたいものです。風邪などに気をつけ、元気になってください。

1・2月の行事予定

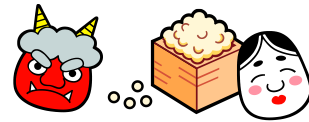
26日(火)～1月5日(金)冬季休業日

- 1月 8日(月) 成人の日
- 9日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後)
- 10日(水) 個別指導開始
- 10日(水)～16日(火) 保護者面談
- 17日(水) グループ指導(吃音)(15時半～16時半)
- 20日(土) 押上小土曜授業
- 30日(火) 都難言協研究発表会(午後)



※午後の指導はお休みです

- 2月 3日(土) 押上小学校公開日
- 6日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後) *午後の指導はお休みです。
- 11日(日) 建国記念の日
- 12日(月) 振替休日
- 13日(火) 都難言協研究発表会(午後)
- 14日(水) 区小研 *午後の指導はお休みです。°°
- 15日(木) 通級相談委員会(午後) *午後の指導はお休みです。
- 21日(水) グループ指導(吃音)(15時半～16時半)
- 23日(金) 天皇誕生日



☆お楽しみ会

ご参加ありがとうございました!!



12月13日(水)、児童25名と保護者の方々が参加し、クリスマスリースを作りました。最初に吃音グループのメンバーがロケットゲームを披露してくれ、楽しい雰囲気の中で作成が始まりました。新聞紙で土台の輪を作ったあと、巻き付ける帯状の布を5ミリ間隔で切りフリンジを作っていきます。これがなかなか大変!「まだまだだー」という声も聞かれました。

フリンジができれば土台の輪に巻き付け、松ぼっくり、リボンをつけて完成!すてきなリースができあがりました。親子で頭を突き合わせて作成する良い機会にもなったようです。完成したリースは玄関や部屋に飾ったと子供たちがニコニコ笑顔で報告してくれました!



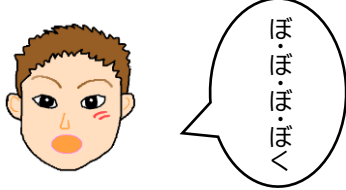
★3月13日(水)おわりの会(15:10～)を行います!

詳細は後日お知らせします。退級・卒業や進級のお祝い、ゲーム対抗戦などを予定しています。

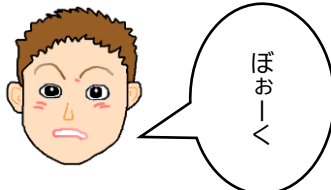
★「えーと、と、と、と・・・」吃ること、うまく話せないのはいけないこと？

まったくそうではありません。言葉がスムーズに出てこない状態を「吃る（どもる）」「吃音がある」と言います。一般的に100人に一人はいると言われています。日本だけでなく、どの国にも吃音のある人はいて、アメリカのバイデン大統領もその一人です。押上小ことばの教室には、現在、17名の児童が通ってきています。

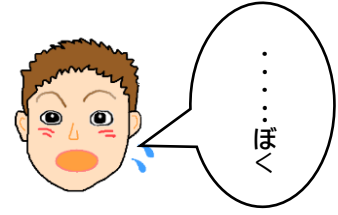
吃音とは以下のような状態を言います。



連発（音・言葉の繰り返し）



伸発（音の引き伸ばし）



難発（詰まって言葉が出てこない）

その他、顔や口・舌に力が入り、腕を振る・足を踏みならすなどの随伴症状がみられることもあります。

「話す」という活動は、日常頻繁に行われますから、吃音のある子供たちは、自分の言葉がスムーズに出てこない体験を始終していることとなります。日常会話に加え、学校生活では、発表や音読場面、日直など注目される場面も多くあり、多くの吃音の子供たちが不安や恐怖感をもっています。「どもるかもしれない」という思い（**予期不安**）があると、より吃音が出やすくなってしまい、話すことを回避するようになり、発話意欲や学習意欲なども低下する場合も多くあります。



「どもる」ことへの不安、恐怖感はなぜ生まれるのかを考えると、吃ったときの失敗体験が影響しているようです。「うまく言えなかった」「話すのを避けちゃった」という**自身の失敗感**と、



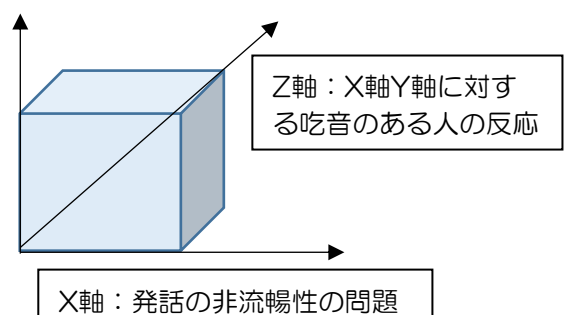
「笑われた」「まねをされた」「変な話し方」など、**周囲の反応による否定的な体験**があります。成人した多くの吃音者が、子供時代に言葉のことでつらい体験をしたと語っています。ことばの

教室では、“**吃っても楽しく話そう**”を大事に、話の内容に耳を傾け、おしゃべりを楽しむようにしています。本人が“**吃ってて、言いにくいのはあるよ、でも僕は僕、私は私**”と、自己有能感、自己肯定感が育つよう指導を進めています。周囲の理解も大切です。通級している児童の在籍学級の先生には、吃音について学級の子供たちに話をさせていただいたり、吃音を指摘せず、発表やかけ算九九など、発話を急がせない配慮をさせていただいたりしています。

◆ジョンソンの立方体モデル

Z軸は吃音のある人自身の発話の流暢性と聞き手（周囲）の反応から受けた影響（肯定的・否定的）内容や大きさによって増減します。発話の流暢性だけでなく、吃音のある子供たちを取り囲む環境や、吃音に対する子供たち自身の捉え方などへの指導も大切と考えさせられるモデルです。

Y軸：X軸に対する聞き手の反応



◆グループ指導・みんなといると安心できる

吃音に対する子供たち自身の捉え方へのアプローチは、個別指導の他、グループ指導も有効です。ことばの教室では月に1回グループ指導を実施しています。“話す”ことへの抵抗感を減らし、おしゃべりを楽しむ活動や、吃音や関連した体験について話し合う活動を行っています。

「日直はできればやりたくない」「友達にまねされてイヤだった」「『だから、なに?!』』と言い返した」など気持ちを共有したり、どう対処したらよいかを話し合ったりしています。皆、同様の経験をしており、思いを共感できる、そして元気になれる場になっています。

右は吃音ある有名人です。落語家、アナウンサー、俳優の方々は吃音を克服しようと敢えてその道を選んだと話しています。

- 吃音があると言われる有名人**
- 徳川家光(徳川三代将軍)、田中角栄(元首相)、3代目三遊亭圓歌(落語家)、丹波哲郎(俳優)、小倉智昭(アナウンサー)、細田守(アニメ監督)
 - B・ウィルス、C・シーン、E・グラント(以上、俳優)
 - T・ウッズ(プロゴルファー)、G・スプリンガー(大リーガー)、E・シーラン(ミュージシャン)
 - H・ロドリゲス(サッカー選手)